

## 6. 口唇口蓋裂児出生直後の対策に関する モデル化の試み

夏目 長門\* 鈴木 俊夫\* 河合 幹\*

我が国で最も発現頻度の高い口唇口蓋裂について出生直後の母子に対するよりよいcareをめざしてその対応について愛知・岐阜・三重の東海地方において我々の試みを実施した。

最近の口唇口蓋裂専門病院における本症治療の充実には目覚ましいものがあるが、患児出生直後より初診までの管理については、いまだ十分とはいえない。我々は従来より厚生省「先天異常モニタリング」の研究として、出産施設における本症出生の実態とその対策について研究を行ってきたが、その経過の中で出生ちよぐの母親は、口唇裂36%、口唇口蓋裂では30%程度の母親が自殺を考えており、精神的に不安定であるが、それは患児出産直後より1週間以内が最も状態が悪いということを確認しており<sup>1)2)</sup>、出産直後の母親に対する対策として下記の如き項目について実施した。

- (1) 出産直後母子に最初に接する産科医、看護婦、助産婦を対象にした講演会やパンフレット等を通じた本症への理解へのはたらきかけ
- (2) 手術前後の写真を付した患者説明用の図譜の出産施設への設置(これは現在では、厚生省児童家庭局母子衛生課の監修のもとにおぎゃあ献金の基金より全国の出産施設に設置されている)。
- (3) 口唇口蓋裂親の会「たんぽぽ会」と協力し

て作製した同会機関紙の総集編ならび同会が説明用パンフレット、入会案内などの生産施設での設置

- (4) 口唇口蓋裂治療の手引き書の出産施設での設置
- (5) 全国の多数の施設、親の会と協力して哺乳など出生直後に必要な知識をまとめてビデオの出産施設での設置

またさらにこれまでの調査結果をふまえ、東海地区のすべての保健所の保健婦、看護婦、衛生士を対象に口唇口蓋裂児出生直後の母子対策に必要な事項についての講演会の実施を予定した。

### 文 献

- 1) Natsume, N., Suzuki, T., Kawai, T.: Maternal reactions to the birth of a child with cleft lip and/or palate. *Plastic and Reconstructive Surg.*, **79**: 1003-1004, 1987
- 2) Natsume, N., Suzuki, T., Kawai, T.: Public awareness of patients with cleft lip and/or palate in Japan. *Plastic and Reconstructive Surg.*, **81**: 1000-1001, 1988

**Abstract :** NATSUME, N., H. FURUKAWA, T. SUZUKI, H. KINOSHITA, N. TSUNODA and

\*愛知学院大学歯学部口腔外科学第2講座

T. KAWAI

The second Department of Oral & Maxillofacial Surgery, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University, Nagoya, Japan.

**Primary and Mental Care for Cleft Lip and/or Palate**

Cleft lip and/or palate is a particularly heavy burden to the patient's family, specifically the mothers giving birth to such children.

Dysfunction manifests in the face, mouth, and jaw. Our previous investigation (Natsume, N. et al.; Maternal reactions to the birth of a child with cleft lip and/or palate: *Plastic and Reconstructive Surgery* 79: 1003-1004, 1987) revealed that suicide was considered by 32% of the mothers bearing children with cleft lip and palate, and

0% of those bearing children with cleft palate.

Among them, 11.5% of the mothers bearing children with cleft lip and palate considered taking the life of the baby and then committing suicide themselves. Further investigation revealed that mothers most frequently thought of committing suicide or doing so along with taking the life of the baby during the week directly after labor while they stayed in the hospital. In the facilities at which such children were born, an investigation of the mothers on managing and caring for children with cleft lip and palate was made with the support of a Ministry of Health and Welfare and the overall cooperation of meeting parents of children suffering from cleft lip and/or palate, Tampopo kai.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



我が国で最も発現頻度の高い口唇口蓋裂について出生直後の母子に対するよりよい care をめざしてその対応について愛知・岐阜・三重の東海地方において我々の試みを実施した。最近の口唇口蓋裂専門病院における本症治療の充実には目覚ましいものがあるが、患児出生直後より初診までの管理については、いまだ十分とはいえない。我々は従来より厚生省「先天異常モニタリング」の研究として、出産施設における本症出生の実態とその対策について研究を行ってきたが、その経過の中で出生ちよくこの母親は、口唇裂 36%、口唇口蓋裂では 30%程度の母親が自殺を考えており、精神的に不安定であるが、それは患児出産直後より 1 週間以内が最も状態が悪いということを確認しており、出産直後の母親に対する対策として下記の如き項目について実施した。

(1) 出産直後母子に最初に接する産科医、看護婦、助産婦を対象にした講演会やパンフレット等を通じた本症への理解へのはたらきかけ

(2) 手術前後の写真を付した患者説明用の図譜の出産施設への設置(これは現在では、厚生省児童家庭局母子衛生課の監修のもとにおぎゃあ献金の基金より全国の出産施設に設置されている)。

(3) 口唇口蓋裂親の会「たんぼぼ会」と協力して作製した同会機関紙の総集編ならび同会が説明用パンフレット、入会案内などの生産施設での設置

(4) 口唇口蓋裂治療の手引き書の出産施設での設置

(5) 全国の多数の施設、親の会と協力して哺乳など出生直後に必要な知識をまとめてビデオの出産施設での設置

またさらにこれまでの調査結果をふまえ、東海地区のすべての保健所の保健婦、看護婦、衛生士を対象に口唇口蓋裂児出生直後の母子対策に必要な事項についての講演会の実施を予定した。